

「『国防』という名の『壊国』」

講演 半田 滋 (ジャーナリスト)

3月18日(土) ※後援会総会後に開催

午後3:00~4:30(開場2:45 予定)

藤沢市民会館第一展示ホール

※感染防止の為、事前予約制、当日のマスク着用をお願い致します。

寒川方面の方;町民センター(午後1時出発)から送迎もあります。



参加費: 当日1,000円/事前申し込み800円/大学生500円/中・高生無料



昨年12月の臨時国会後に閣議決定された“安保関連3文書”。“専守防衛”と謳いながら、敵基地攻撃能力(反撃能力)の保有を可能とし、我が国の平和憲法を真っ向から否定するものです。同時に、防衛費が2023年からの5年間で約43兆円規模、2019年度から5力年の総額約27.4兆円と比べると1.5倍を超える増額に。一方で「異次元」の子ども子育て支援の財源も決まらず、国民生活の窮状も見て見ぬふり。今こそ、軍拡・増税にストップをかけるべきです。

そして、今春4月は、統一自治体選挙! 県議(4/9) 藤沢市議(4/23)。「公共政策の専門家」であり、市民との対話を掲げ、杉並区長となった岸本聡子さんのビデオメッセージもあります。平和といのちを大切に足元からの政策実現についてみなさんと考える機会にできればと思います。



立憲民主党神奈川第12区総支部一同、ご参加をお待ちしています!



【主催】あべともこと共に歩む会/立憲民主党神奈川第12区総支部

TEL: 0466-52-2680 FAX: 0466-52-2681

E-mail: inochi@shonanfujisawa.com

米国のお先棒を担いで敵基地攻撃に走るのは「匹夫の勇」

岸田首相は何がしたくて首相になったのか？

半田 滋 (出典；1/18 日刊現代デジタル)

この人は何がしたくて首相になったのだろうか。

自民党総裁選を通じて訴えた「令和版所得倍増」のための分配施策、金融所得課税の見直しは党内や財界の反対にあって言わなくなった。

首相に就任すると、言ってもいない「**敵基地攻撃能力の保有**」や「**防衛費の対 GDP 比 2%**」を書き込んだ**安保関連 3 文書を閣議決定**した。これらの軍事力強化は安倍晋三元首相の持論である。本人に代わって安倍政治の実現を図ったとみるほかない。

防衛費倍増を意味する GDP 比 2% という腰だめの数字は、安倍政権がつくった米政府への借金を返し、さらに借金を重ねることに主眼が置かれている。

米政府から日本政府が買入れる高額兵器の契約額は毎年 500 億円前後で推移してきたが、第 2 次安倍政権から必要性を度外視して「爆買い」に走り、4000 億円、7000 億円と増え続け、安倍氏が首相を退任した 2020 年度でも 5000 億円近い。

さらに敵基地攻撃に利用する長射程ミサイルや護衛艦「いずも」型を空母化するのに必要な戦闘機を買うのだから兵器ローンはさらに増える。GDP 比 2% は、すべての問題を丸く収める「魔法の数字」なのだ。

14 日にあった日米首脳会談で、バイデン米大統領はホワイトハウスの正面玄関で岸田氏を出迎え、軍事力強化を決めた日本の取り組みを称賛。**米国製兵器の「爆買い」を続けることを可能**にしたばかりでなく、米国の戦争に自衛隊が参戦して米国から大量に買入れる巡航ミサイル「トマホーク」を発射したり、米兵の代わりに自衛隊員が戦死したりするのだから、大歓迎されるのは当たり前の話だ。

安倍政治の「負の遺産」を国民が肩代わりする

出典：朝日新聞「骨抜き専守防衛 安保 3 文書決定」2022,12,17

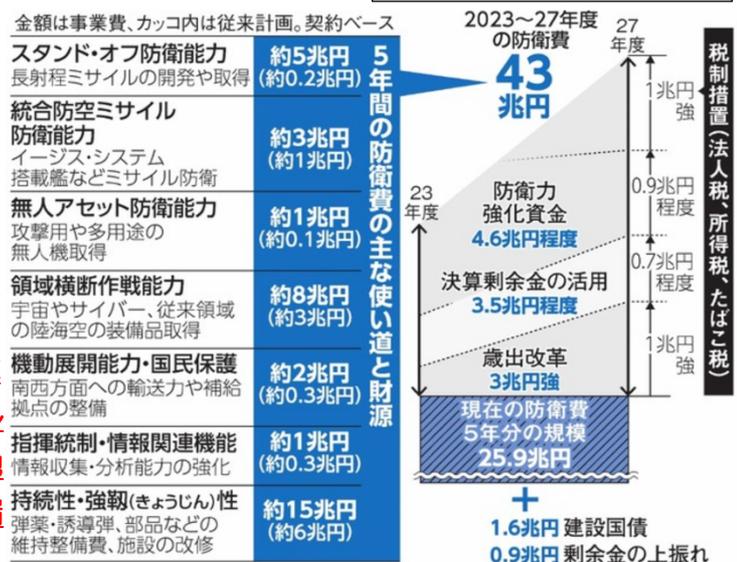
忘れてならないのは、**5 年後に不足する防衛費 4 兆円は増税によって賄われる**という点である。岸田首相は歳出改革などを進め、それでも不足する 1 兆円分を税金で補填するというが、思惑通りに進むとは思えない。4 兆円のはずは増税で穴埋めすることになるのだろう。安倍政治の「負の遺産」をすべての国民が肩代わりするのだ。

政府や自民党は、敵基地攻撃能力を持てば抑止力が高まり、日本は安全になると主張する。本当だろうか。**自衛隊は「専守防衛」の制約から攻めてくる敵を撃退する訓練しかしていない。攻撃は想定しておらず、他国のどこに基地があるのか正確な地点を知る術さえない。そんな中途半端な攻撃力に相手がひるむはずがない。**

3 文書には自衛隊と米軍との連携強化が打ち出された。米軍は高い情報収集能力を持ち、自衛隊の情報不足を補うことができる。当然ながら日米の作戦行動は一体化される。蓋然性が高いのは、米中が対立する台湾有事だろう。

日本が中国攻撃に踏み切れば、当然、反撃される。太平洋を隔てた米国と比べ、目と鼻の先にある日本への攻撃は何と容易なことか。**米国のお先棒を担いで敵基地攻撃に走るのは「匹夫の勇」**というほかない。

「死せる安倍氏が生きる岸田氏を走らせる」。岸田氏に無念な思いはないだろうか。首相を続けることが一番の目的のようにみえるので、何でもいいのかもしい。



3 文書には自衛隊と米軍との連携強化が打ち出された。米軍は高い情報収集能力を持ち、自衛隊の情報不足を補うことができる。当然ながら日米の作戦行動は一体化される。蓋然性が高いのは、米中が対立する台湾有事だろう。日本が中国攻撃に踏み切れば、当然、反撃される。太平洋を隔てた米国と比べ、目と鼻の先にある日本への攻撃は何と容易なことか。**米国のお先棒を担いで敵基地攻撃に走るのは「匹夫の勇」**というほかない。「死せる安倍氏が生きる岸田氏を走らせる」。岸田氏に無念な思いはないだろうか。首相を続けることが一番の目的のようにみえるので、何でもいいのかもしい。